

## 災害医療支援薬剤師研修コース、開催！

本年度も全国各地で研修を開催しております。北海道・東北ブロックは仙台(7月)、関東・甲信越ブロックは東京(10月)、近畿・中部ブロックは大阪(11月)にて行いました。2018年度最後の研修は、中国・四国・九州ブロックは3月福岡で開催します。毎回、多くの方々に受講応募をいただき誠にありがとうございます。今年行われた研修の様子を紹介します。

### ■第12回災害医療支援薬剤師研修会 2018年7月21-22日(仙台) プログラムB■

二度目の仙台での研修が、今年も無事終了いたしました。受講者の皆様、講師の先生誠にありがとうございました。研修会2週間前に西日本豪雨災害が起こり、支援活動続く最中での開催を検討しましたが「このような状況だからこそ教育を止めない」という研修担当理事の言葉にハッとしました。講師の方々も、支援活動の合間をぬって、予定通り仙台まで講義に来てくださいました。

今回は多くの外部講師の先生にご協力いただき初日にPFA、2日目に医療関連団体、医薬品卸、製薬会社との連携を学ぶプログラムでした。講義にはまさに当時行われていた豪雨災害支援での動きや活動報告も交えてあり、被災現場のリアルを考えさせられる貴重な内容でした。また外部講師の方々も、最後まで熱心に見学をされており、休憩時間に講師の先生に質問する受講者も多くみられました。情報共有の場として有意義になったことは研修委員として嬉しい限りです。「薬剤師に期待すること」も知ることができ、今後も可能な限り外部講師の先生を招いて開催したいと思っています。最後に、今回研修会に受講生として参加予定でしたが豪雨災害の支援に行くため受講できなくなった先生もいらっしゃいました。仲間として誇りに思うと同時に、この場を借りて敬意を表したいと思います。

外部講師の先生方。岡山での支援活動の合間を縫って、予定通り仙台まで講義に来てくださったPFAの河瀧先生・赤坂先生(右下)

古井先生→  
時計回りに西脇先生、中央下が中久木先生。  
左下が山田先生。



#### 【各講義について感じた点】

##### ●災害時のメンタルヘルスケア・PFA

国立病院機構災害医療センター 河瀧讓先生、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 赤坂美幸先生

被災者であっても支援者であってもメンタルヘルスケアは自助共助が必要になりますが、要支援者を早く専門家に繋ぐために日頃から顔が見える関係の構築が重要だと再認識しました。

##### ●歯科医師会との連携 東京医科歯科大学 中久木康一先生

災害時の歯科医師の役割に加え、口腔ケアの重要性について学びました。また、歯科医師と薬剤師が連携して嚥下機能評価と服薬支援を行う可能性を見いだすことができました。

##### ●看護協会との連携 宮城県看護協会 斎藤仁子先生

東日本大震災でのご自身の経験を踏まえて、災害時薬剤師にしてほしいこととお話していただきました。他の職種だから気づくことの出来る薬剤師ニーズがあることを実感しました。

##### ●医薬品卸の災害対策 株式会社バイタルネット 古井直栄様

医療従事者が前線で働けるのは、物流の継続や後方支援があつてのこと。医薬品卸の持つロジスティクス力を知ることができました。

##### ●製薬業界災害対策 株式会社大塚製薬工場 西脇丈泰様

業務継続計画(BCP)を策定しており、派遣社員を含めて従業員の生活用品や備蓄食料を確保している点はさすが大手製薬会社と感嘆しました。被災後の迅速な復旧は、事前の備えや減災対策なくして成り立たないと感じました。万全を期してわざわざ徳島から事前に打ち合わせに来てくださいました。

●医師会との連携、JMAT活動 ひかり薬局篠山店 鈴木康生先生

JMATと帯同した支援活動をロールプレイ形式で学びました。避難所アセスメント、災害時診療記録や手書き処方箋の記入練習など受講者にとっては実際の活動をイメージでき満足感が高い内容となりました。

●日本薬剤師会の災害対応 宮城県薬剤師会副会長 山田卓郎先生

薬剤師が所属県外で支援活動する際の現状の問題点や費用弁償等、支援する上で参考になる法規制をわかりやすくご説明いただきました。

上記を執筆して下さったJPSDR登録薬剤師/北海道・東北ブロック研修委員の尾形知美先生の「ボランティアについて」の講義では、「ボランティア保険の重要性を学びました」「ボランティア団体との連携が大切ということや全国災害ボランティア支援団体ネットワークについても再確認できました」と受講生の方々よりお声を頂きました。また講師尾形先生の采配により、会場の色々な方々の実支援体験を聞くことが出来ました。

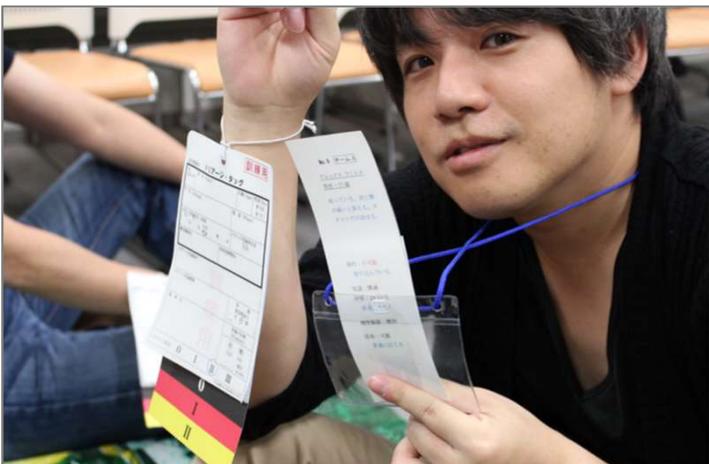
今回は大半が地方ならではの講師陣で、受講生の方々にとって、「講師の先生のプロならではのお話が聞けて良かったです。いろいろな職種の方がいろんな事を考えて行動されていることに感銘を受けました。また、3・11のときの生の声、その後の活動など仙台ならではのお話が聞けたのも感動しました」と、地元色溢れた印象的な研修になったようです。ありがとうございました。



■第13回災害医療支援薬剤師研修会 2018年10月20-21日(東京) プログラムD■

プログラムDは、ロープ法に、AED、トリアージと実習の多いコースです。AEDとトリアージは、今回もJPSDR登録薬剤師の吉田香里先生と医師の大桃文知先生に依頼させていただきました。大変人気の講義でリピーターも多く、「内容がグレードアップしており、かなり勉強になった」と今回も喜ばれたようです。また初めてトリアージ訓練を体験された方も多く好評を頂きました。

AEDの講義では、BLSに精通している受講生の先生方がサポーターとして協力してくれました。



支援薬剤師では、清水雅之先生が「被災地薬剤師の役割、人員・物資の受け入れに関して」の講義で初の講師をつとめてくれました。静岡県の事例を多く出され、大変分かりやすい講義でした。

ロープ法は今まで外部の方に依頼していましたが、今回は支援薬剤師の鈴木先生が初挑戦！日常生活のシチュエーションで使えるものも講義いただきました。

他、講師を今までつとめられたことのある支援薬剤師の先生方も、これまでやったことのない講義を担当しました。

## 今回はじめて研修運営を担当しました

10月20-21日、東邦大学医療センター大森病院にて、第13回災害医療支援薬剤師研修コースが開催されました。今回私は登録薬剤師として「災害時活動チームに関して」という災害対策本部、活動拠点本部と言った「本部活動」について担当しました。

当日気づいたのは私の2つ前、前の講義が自分の講義・実習と関連がありかつ連動性があることでした。私と御二方の先生とは事前に打ち合わせ、内容確認も特にしておりません。ですが、スムーズに全ての講義が流れたのも、災害時の医療、薬剤師の支援について体系的に学べるようにされたJPSDRの先生方の組立によるものでは、と驚嘆しました。

またこの研修では講師の違いによる表現やアプローチが異なっても、受講生は災害時における医療の共通言語や薬剤師が習得すべき事項について学べます。当の私の講義は演習を多くして「本部の疑似体験」を目的にし、受講生には中々の反響だったと信じております。他の講義も体験型やグループワークがあり、すでに災害時の医療を学んだことがある薬剤師の方も受ける価値が高いと感じます。是非一度覗いて頂けたらと思います。

併せて今回は研修委員として開催運営についてはじめて関わらせて頂きました。業務量としては決して少なくはありません。しかし、この研修会に関わる先生方や事務局のご支援ご協力により、一つ一つ連絡調整することで気づくと準備が出来上がっており、当日も大きなトラブルなく開催できました。密度の濃い、1日掛かりの研修後、意見交換会も準備させていただき、多くの先生方にご参加いただきました。この意見交換会には外部講師の先生もご参加いただきました。外部講師の医師の方々には「災害時の医療」に造詣が深く、また「医薬連携」に心意気がある先生方で、昼の講義の時以上に力強い印象がございました。



この研修会を通していろいろ学ばせて頂きました。  
今後ともよろしく願いいたします。

JPSDR登録薬剤師/関東ブロック研修委員 荻田 義明

荻田先生の本部シミュレーションのグループワーク。外部講師の久野将宗医師も興味津々。後日、「あれは面白い演習だった、自分も使って良いですか？」と連絡がありました。受講生の方からも「受援体制の構築に力を入れたいと考えているので、本部活動のシミュレーションは大変参考になった」と感想を頂きました。

## ■第14回災害医療支援薬剤師研修会 2018年11月17-18日(大阪) プログラムC■

今年のはじめて大阪大学附属病院を会場に、研修を開催しました。阪大薬剤部で、JPSDR登録薬剤師の安田公美子先生に運営のご協力を賜りました。関西研修運営チームの皆様もサポートを誠にありがとうございました。

研修一日目は計画停電があり、会場は5階、トイレに行くのも階段で別棟に行かねばならない不便な状況でしたが、外部講師の方々も、受講生の方々も寛容に対応してくださいました。また会場が一部屋のみしかなかったことから、包帯法講義の前に全員で机や椅子を部屋から出して、ブルーシートを敷いて、また次の講義前に全員で机を戻す…と、受講生の方々の協力がなければスムーズに事が運ばなかったところでしたが、ご協力ありがとうございました。むしろ研修後のアンケートでは、「停電などこの研修らしい状況もあり楽しく学べました」などのお言葉を頂き、災害研修に来られる方々ならではの意識の高さを実感させられました。



会場設置のご協力までありがとうございました。

## 第14回JPSDR大阪研修を終えて

ご参加の皆様、ありがとうございました。関西の研修ではありましたが、北は北海道から南は長崎県までと全国の会員の皆さまにご参加いただきました。これも、災害医療について薬剤師が必要とされ、また熱意を持った方が多いということが改めて分かりました。

今回の研修も、地元の外部講師を多く招聘出来ました。大阪赤十字病院より雪本江里子先生、大阪大学医学部附属病院より酒井智彦先生と日本赤十字社大阪府支部より小西修一先生・神庭崇先生、京都府立洛南病院より岩根達郎先生、松坂北消防署より渡部歩先生に講義いただきました。

災害現場では赤十字を目にする機会が多いと思います。雪本先生の赤十字の活動についての講義では、共に協力して活動を行う必要があることが分かりました。酒井先生からは外傷診療と肺炎、脱水について講義いただきました。トリアージでは致命的な外傷を見抜く方法をわかりやすく教えていただきました。また、避難所生活では脱水がしばしば問題となることがありORSの有用性について学びました。小西先生、神庭先生からは包帯法と応急救護について講義いただきました。普段、三角巾など使い慣れていない薬剤師にとって新鮮で、コミュニケーションの取り方も同時に学ぶことができたのではないかと思います。岩根先生からはDPATの活動について講義いただき、急性期においても精神医療の必要性が高いことが分かりました。渡部先生からは、国際緊急援助隊と消防の活動について講義いただきました。国際緊急援助隊には薬剤師が必要メンバーにはなっていますが、登録者数が少ないことが分かりました。これを機会に当学会から登録者が多くなることを期待しています。消防については消防団の活動を紹介いただきました。地域に密着した消防団との協力は大切であり、地域の薬剤師と協力することで防災の面で新しい可能性を感じる事ができました。

JPSDR登録薬剤師の方からも講義いただきました。GWの方法についても、新しいものを取り入れられ時間が進むごとに、グループ内でたくさん意見が出てくるようになりました。今回行ったグループ間で討議を行うGWについては私自身も参加したくなるような企画で大変盛り上がったのではないかと感じられました。私は「搬送」の講義をはじめ担当しました。「搬送」については薬剤師に馴染みのない分野ではありますが、災害医療を円滑に進めていくには必要な知識ではあります。今回、本研修会に初参加の方も多数おられたこともあり、分かりやすい講義内容を考えるうえで、私自身も勉強になりました。



また今回はスタッフとして参加して、本研修会を別の角度から見る事ができ、非常にいい経験となりました。関係者の皆様本当にありがとうございました。

JPSDR登録薬剤師/大津赤十字病院 中村 祐樹

写真は、2018年7月倉敷豪雨災害支援に行かれ、今回初の講師をつとめたJPSDR登録薬剤師 横山 佑先生の講義の様子です。

## お知らせ

### ■日本災害医療薬剤師学会 シンポジウム～災害医療支援—知識の習得から実践に■

2019年1月20日(日) 大森赤十字病院にて開催いたします。詳細は、[www.jpdsr2019.tokyo](http://www.jpdsr2019.tokyo) をご覧ください。

事前参加申込み期限は、12月26日(水)正午までとなっております。

2018年に支援薬剤師として登録された方(2018年1月広島～2018年11月大阪研修まで)は、シンポジウムにて支援薬剤師修了証授与式を行いますので、是非ご参加ください。授与式にご参加の方は、シンポジウム事前参加登録を宜しくお願い致します。

### ■第15回災害医療支援薬剤師研修会 2019年3月2-3日(福岡) プログラムA ■

こちらは2018年度最後の研修となります。初の福岡開催です！いろいろな県で開催が出来ればと随時、会場(収容可能人数40名以上希望)を探しております。中国・四国・九州ブロックにかかわらず、全国各地でお使い出来る会場がございましたら、是非事務局までお知らせください。2019年も、各4ブロックで研修開催予定です。日時・場所は決定次第、会員メーリングリストおよびホームページで告知しますので、奮ってご応募ください！

### ■日本災害医療薬剤師学会 学術大会■

2019年7月20-21日 宮城県薬剤師会館(予定)で開催します。

ご参加お待ちしております。本学術大会でも、支援薬剤師修了証授与式を開催しますので、1月のシンポジウムにご欠席される新支援薬剤師の方は、こちらのご参加をご検討ください。

**本年度も大変お世話になりました。2019年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。**